



## キルギスに育ててもらった恩と縁を大切に 日本語教育を通じて日本と世界に貢献したい

西條 結人さん 四国大学 全学共通教育センター日本語教育部門 助教  
Yuto Saijo

周囲の海外での活躍を聞いて、自分も見知らぬ土地や知らない言語の中で挑戦してみたいと思った。  
中央アジア・キルギスに派遣され、日本語教育に邁進。その多大な貢献は、「名誉准教授」の称号として実をつけた。  
これからも言語を通して学生や自身の世界を拡張させ、日本と世界の教育の発展に貢献していく。

### 留学先のスペインで見つけた 日本語教育の道への切符

「キルギスはお茶文化なんです」。そう笑いながらキルギスの可愛い茶器でお茶を入れてくれたのは、西條結人さん。現在、徳島市内に位置する四国大学で、助教として学生の教育に携わっている青年海外協力隊経験者だ。

語学が好きで英語教師を夢見たこともあったが、大学在学中の留学先スペインで、日本語を熱心に勉強する現地の学生を見て、「母国語を楽しく教えられたら」と感化されたことをきっかけに、日本語教育への道を志した。

協力隊を意識したのは、大学院の先輩たちが海外で日本語教育に携わった

経験談を聞いた時。「知らない世界で自分も挑戦してみたい」。その思いを胸に、2015年に中央アジア・キルギスへ派遣された。

### キルギスから日本語で発信 現地で成し遂げた多大な功績

配属先は、キルギスの首都ビシケクにあるビシケク人文大学(現・ビシケク国立大学)。東洋国際関係学部日本語日本文学講座で7代目ボランティアとしての活動を始めたが、着任時期の都合により、最初の3ヶ月は授業見学や日本語教育の資料、生活文化の研究に励んだ。大学や他学科のことを知るため、学部の教員会議にも毎回顔を出した。最初は様子を伺っていた同僚たち

も、親身になってサポートしてくれるようになった。

活動の軸は、「日本語教育支援」と「キルギス日本語教師会」の二つ。教員として、学部・大学院での日本語科目や専門科目、論文の指導、卒業認定国家試験委員を担当した。学習成果を世界にアピールし、学生のモチベーションを保つことを目的に、SNSでの発信も試みた。また、日本語・キルギス語の教





専門は社会言語学・日本語教育学。「キルギスと日本の授業文化の比較」など、キルギスの言語・社会・教育について日々研究活動を行っている。



研究室で、日本語教師を目指す学生からの質問に教材を使って丁寧に答える。



普段自分たちが無意識に話している日本語の文法をテーマに、授業を通じて「ことば」とより深く向き合う時間を生徒たちに持ってもらう。

材を同僚と共に開発し出版。配属先の日本語版ウェブサイトやパンフレットも作成した。「現地には人の能力や情報が溢れていたのですが、形として残っていなかった。学習・教育の成果を発信して残しておけば、現地の教員や日本から赴任する教員などの参考資料になるという考えでした」。日本語教師会では、弁論大会の企画運営や、地域でのイベントを実施。セミナーや国際研究大会の開催、紀要の発刊にも携わった。「大変なこともありましたが、活動は“楽しい”と思える日々の連続でした」。熱心かつひたむきな努力を重ねた結果、大学から「名誉准教授」として功績を讃えられた。

### 日本と世界の発展に向けて 日本語教育の面で尽力し続ける

自分の経験や専門をしっかり伝えられるのは高等教育だと考え、大学教員を目指した西條さん。帰国後は、大学院博士課程に復学し研究活動が続けつつ、2018年4月から四国大学全学共通教育センターの助教として活躍中だ。主な授業担当は、留学生に対する日本語

教育や日本語教員養成課程の科目。後者は、海外からの留学生も履修している。「日本語を母語(第一言語)としない日本語教師の強みは、自分の言語習得経験を生かして学習者に寄り添った教育ができるということ。外国人材の受け入れが進み、社会でますます大きな役割を担うであろう日本語教育分野において、これら留学生の存在が日本語教師の枠組みを広げてくれることを期待して、非母語話者教師の養成にも力を入れていきたいと思っています」。

キルギスには、調査研究や国際交流のために毎年訪れている。いつか現地の教育科学省や日本語教師会と共に、「キルギスの教育文化に合わせた日本語教師養成のスタンダードとプログラムを作る」という野望もある。「現地の息遣いは、その場に行かないと肌で感じるできません。留学や就職などの実用的な目的が達成されにくいキルギスの日本語教育の現場で奮闘する先生たちに出会い、共に活動できたことは私の財産です。今いる日本でキルギスのためにできることを考え、またひとりの大学教員として日本語教育や日

### 西條 結人さん プロフィール

徳島県出身。関西外国語大学外国語学部卒業、鳴門教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。広島大学大学院教育学研究科博士課程に在学中、青年海外協力隊としてキルギスへ赴任。その貢献により「ビシケク人文大学名誉准教授」の称号を授与される。現在は広島大学大学院博士課程に在籍しながら、四国大学全学共通教育センター日本語教育部門助教として勤務。

本語教師について学生に伝えていくことで、「ことば」を見つめ直すきっかけとなれたら。未来の教員を育てることにより、間接的に出会える学習者が増えていくことにもロマンを感じています」。授業で「私も西條先生のように人に良い影響を与えられる人になりたい」という感想をもらい、教員が人に与える影響力を改めて感じた。「私たち教員も夢を持ち、走り続けていないと学生に響かない。協力隊を経て、日本の教育だけでなく世界の教育の発展にも貢献したいという目標を抱くようになりました。新しい視点を増やすために、また言語を学び始めたいと思っているんです」。そう語る彼の次の扉は、どんな新しい世界へとつながっているのだろう。

### 西條さんへの エール!

四国大学  
学長  
松重 和美 さん



### 現地で感じたグローバルな視点を学生に伝えて

西條さんが縁となり、2019年に四国大学はビシケク国立大学との学術交流協定を締結しました。交換留学生も受け入れていく予定で、今後の交流促進に高い期待を寄せています。海外の経済や思想、教育の問題などは、現代の日本を生きる学生にとって肌で感じる機会が少ないもの。西條さんには、大学教員としての本人の成長はもちろん、現地で得た体験談や生の声を学生たちに伝え、彼らのグローバル意識向上に貢献して欲しいですね。